

## ひみつの悪口日記

近野こんの七なな彩せい

「六月一二日わたしはママが大きらいだ。」  
 その日記に記してから、もう二ヶ月以上たつ。いろいろな思い出してみても、やっぱり悪いのはママだ。この日記帳には、ママへの不まんがたくさん書かれている。私のひみつのひとり言だらけ。ちよっとだけのぞいてみようか。

日記は、一年前から始まっている。

「『こんな点数取って。き当に勉強しているから、当然の結果だよ。』ほら、また始まった。なきながらおせっ教を聞く私と、一方的にしかる母。家族みんながあきれている。だれに？ それはやっぱりママにだよ。」

「二〇一八年一月一日まで明日まで勉強しなきゃならないの。」

そりゃ、そうだ。だって、明日は私のたん生生日だ。特別な日なの。私が私になった日なの。ひどいよ。なぐり書きの字を見て、イライラがわき起こる。やっぱりママに、今でもはらが立つ。でも、あれれ？ とんりのページはらんぼうな字から、やさしくなっているぞ。何かあったのかな。

「二〇一八年二月一日たん生生日プレゼントをママがくれた。この人形、私がつつとほしいと思つてたやつだ。でも、そのことを言つたことなかったのに、どうしてわかつたの？ やつたー生まれてきてよかった。」

こんなことで、生まれてきてよかったと思うのって……いやいや、人形のことだけじゃなくて、口に出さなくてもちゃんと伝わっていることがうれしいと思つたんだ。

ページをめくるたびに、なみだが出てきた。でも、それは、お決まりのママの言いがかりに、はらが立つたからじゃない。ママの名言(?)が書いてあるからだ。

「勉強は人のためにするものじゃない。自分のためにするものだ。」

「しょう来自分のやりたいことを選べる人になれ。選んでもらうんじゃない。あなたが選ぶ方になるんだ。そのために勉強するの。」

正直、ママの言うことはまだよく実感できない。でも、ママが「勉強」と言うのは、私のため。おこるのも私のため。こんなにいろいろ言ってくれる人は、他にはいないから、私のこのママが、ママで良かったと思う。

日記を読み返して、気づいたことがたくさんあった。大きいの中に大好きがあるってこと。大きらいと大好きはつながっているのかも。そう、まるで、メビウスの輪みたいだね。

部屋のドアを開け放ち、階段をかけた下だけ、ハサミで切りさいてすてた。だって、悪口は、もういらぬから。ノートからむ地の紙をハートに切つて、メッセージを書いた。その相手は……

「ママへ。いつもありがとう。毎日ごはんを作ってくれて、毎日お風呂に入れてくれて、勉強を教えてくれて、病気の時に、かん病してくれて。それから……」

あれ、私の毎日にはママがいっぱいだね。